



学校だより

(4月号)令和2年4月8日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢(ゆめ)に向かって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 「学習のきまり」を守ろう

がんばろう

校長 河井 尚

令和2年度が幕を開けました。年度末に引き続き異例だらけの幕開けとなりました。新型コロナウイルスの影響で「例年通り」の活動や取組はほとんどなくなりましたが、今年も桜の花は咲き誇りました。校舎や施設も健在です。新開小学校では、新入生42名を含め、児童数362名でスタートします。保護者、地域の皆様、本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で世界中が混迷を深めています。私は、こんなときだからこそ、(デマを含めて多種多様な情報が飛び交っていて難しいところもありますが)状況を正しく理解しようとする姿勢と、事実に基づいた適切な言動が求められていると思います。

ピーター・F・ドラッカー(オーストリア出身の経営学者・1909~2005)の「コップの水理論」をご存知でしょうか。「コップの水がもう半分しかない」と考えるのではなく、「残りがまだ半分もある」と考え、「ネガティブ思考をやめて、ポジティブ思考になりましょう」というものです。不安の方が大きくなかなか難しいですが、現在の状況をポジティブ思考で受け止め、今しかできないことを行い、未来に生かそうと考えるのも一つかもしれません。SNSで話題になったイタリア・ミラノの高校の校長であるドメニコ・スキラーチェ氏は「せっかくの休みですから、(中略)良質な本を読んでください。」と高校生に訴えています。ポジティブ思考には、健康や幸福感のメリットがある、という研究結果もあるそうです。

一方のネガティブ思考。全く良くないかといえは、必ずしもそうではなく、以下のようなメリットがあるようです。

「コップの水が半分しかない」と考える人は、あらゆるシナリオを想定できます。予想できる悪いシナリオが起こらないように、最善の手を打つのです。(中略)ネガティブな予想は、よりよい準備をするのに使われます。日常的なシーンであれば、本番前に練習をしたり、遅刻しないよう、早めに家を出たりするのは、悪い状況を想像できるからです。(「旅レンズ 心を旅する小さなメディア」2019.05.22より)

どちらの思考も私たちにとって大切な要素なのだと思います。「しあわせはいつも自分のところがきめる」(相田みつを)とポジティブに受け止める心をもちつつ、ネガティブ思考のメリットを生かした合理的且つ冷静な判断や行動が、今こそ求められているのかもしれない。一人ひとりが当事者意識をもって、「ワンチーム」で乗り越えていきたいものです。

「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしい」(寺田寅彦〔物理学者 1878~1935年〕)

「合理的な思考で私たちが持つ貴重な財産である人間性と社会とを守っていきましょう。」

(ドメニコ・スキラーチェ校長先生)

がんばろう、新開小！がんばろう、さいたま！